

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。

ア 授業力向上PTを中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICTを活用した授業展開」や「アクティブラーニング(AL)」をさらに発展させる。

イ 1人1台端末の導入に向けて学校としての組織的な取り組みを行い、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ学びの深化を図る。

ウ 新学習指導要領の内容について教職員に周知徹底する。各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り観点別評価を確立する。適切な授業改善に取り組む。

エ ベル始め・授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。

*** 学校教育自己診断(生徒)「授業は分かりやすい」(H30:49%・R1:51%・R2:68%)を3年後には75%にする。

(2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の充実や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。

*** 学力生活実態調査で、生徒のゾーン占有を年次進行で低下させない。3年後にはBCゾーンの低下率を-10%とする。(H30:30%・R1:30%・R2:30%)

(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。

ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。

イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取り組みを推進する。

*** 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標級の15P増をめざす。

*** 学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H30:50%・R1:60%・R2:66%)を3年後には70%にする。

2 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 豊かでたくましい人間性の育み → 夢や目標を持った生徒の育成

(1) 各教科、道徳教育、キャリア教育、人権教育等において、「生きる力」を育む教育活動の基盤としての志学・総合的な学習(探究)実施計画を推進する。

*** 将来構想会議が核となって検討を進め令和3年度完成、4年度検証および再設定、5年度再試行できるようにする。

(2) 進路指導の充実を図る。

ア チャレンジ講習(毎週7限)を有効活用し進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。

イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100%をめざす。

ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立し、第1希望進路達成率を向上する。

*** 公募推薦等受験、一般受験での合格率(のべ)を高める(H30:13%,4%・R1:15%,4%・R2:25%,25%)⇒3年後には35%,20%をめざす

(3) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。

ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」大麻等の乱用防止や情報モラルの育成に努め、特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。

イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品・携帯電話等の指導にあたり学年間格差をなくす。

ウ 基本的な生活習慣の育成。欠席者数、遅刻者数の減少に取り組む。

*** 学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあっている」(H30:68%,44%・R1:64%,41%・R2:70%,66%)を3年間で共に80%・70%にする。欠席者数・遅刻者数(H30:6907,5329・R1:6536,3143・R2:4218,2762)を3年間で2/3減させる。

(4) 「元気な学校づくり」部活動・特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。

ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。

イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。

ウ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。

*** 部活動加入率(H30:58%・R1:54%・R2:48%)を3年間で60%にする。

*** 学校教育自己診断(生徒)「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」(H30:64%,34%・R1:60%,33%・R2:75%,56%)を3年間で80%・60%に。

(5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実

教育相談体制や支援教育体制を充実させ保護者や関係機関との連携を強化し生徒の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切かつ必要な支援・指導を行う。

ア 「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、いじめなどの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。

*** 学校教育自己診断(保護者)「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」(H30:40%,50%・R1:37%,49%・R2:51%,68%)を3年間で60%,70%以上にする

イ 新型コロナウイルス感染症にかかわる対応 子どもの安心安全の確保・学びの保障・人権尊重の教育の推進(感染症に係わる人権問題)・教職員の負担軽減

(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権3法、府人権関係3条例の成立を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。

イ 「グローバル人材の育成」令和2年度学校経営推進費(「漕ぎ出せ世界へ!みなと国際人プロジェクト」・事業費1,074,558円)で導入したランゲージe-learningルームを有効活用し、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえた国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成をはかる。国際交流等により文化や習慣の違いを尊重する精神を育む。

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「将来構想会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。

ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。

イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。

*** 学校教育自己診断(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」(H30:37%・R1:43%・R2:46%)を3年間で60%とする。

(2) 「頼りにされる校務力」の育成(新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る) 「学び続ける」教職員の育成(社会の変化に対応できる教職員)

初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び経験年数の少ない教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)・・・組織的継続的な人材育成、ハラスメントのない同僚性の高い職場環境

(3) 広報活動と地域連携の充実(学校経営推進費の有効活用)

ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。コロナ禍の中での学校説明会や中学校訪問などを工夫し、広報活動を活発にする。

イ 国際交流を通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。

*** 学校教育自己診断(保護者)「港高校のHPをよく閲覧する」(H30:51%・R1:45%・R2:47%)を3年間で60%とする。

(4) 働き方改革 教職員の長時間勤務の縮減に向けた取り組みの促進や在校時間等管理及び健康管理を徹底するとともに、一人ひとりの意識改革を推進する。

*** 時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]								学校運営協議会からの意見																																																															
回収率																																																																							
	1年生	2年生	3年生	全学年	R3回収率	R2回収率	前年度比																																																																
生徒	228	226	228	682	93.6%	76.0%	+17.6%																																																																
保護者	197	168	177	542	74.5%	82.0%	-7.5%																																																																
教職員				53	76.8%	85.5%	-8.7%																																																																
<p>◎ 生徒は『Google フォーム』、保護者・教職員は『さくら連絡網』で実施。前年度、回収率の低かった生徒向けアンケートは、1人1台端末を利用しLHRで回答する方法で回収率が大幅に上がった。一方で保護者・教職員向けの回収率が下がっている。教員の方は、今年度から非常勤職員も対象としたために数値が下がっている可能性がある。保護者向けについては、2・3年生がそれぞれ昨年度から40名ほど減らしているが、原因は不明である。</p> <p>◎ 昨年度に引き続き、生徒・保護者・教職員いずれも7割近い肯定回答となっており、教育活動に対して一定の評価を得られていることが確認できた。</p> <p>◎ 集計結果は、生徒・保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析とともに配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図る。更に学校HPに結果をアップし、地域や関係者にも伝える予定。</p>																																																																							
<p>● 生徒アンケート</p> <p>回収率が大幅に上がったにもかかわらず、肯定的意見は昨年度とほぼ変わらない高い数値であった。R1年度までとR2年度以降とで生徒の意識が大きく変わったことが見て取れる。教職員の日々の取り組みに加えて、学検・調査書の比率変更が大きく影響を与えていると考えられる。</p> <p>【肯定的意見が多い項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E「先生はプリント学習やICTの活用など教え方にさまざまな工夫をしている」</td> <td>86%</td> <td>87%</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>O「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている」</td> <td>85%</td> <td>82%</td> <td>66%</td> </tr> </tbody> </table> <p>以前から肯定的意見が多かったが、更に数値を伸ばしている。改善に取り組んできた成果であろう。</p> <p>【伸び率の高い項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B「港高校の生徒であることに誇りを持っている」</td> <td>65%</td> <td>56%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>F「港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」</td> <td>66%</td> <td>63%</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>H「生徒指導について、先生は協力して一致した指導に当たっている」</td> <td>65%</td> <td>66%</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>L「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」</td> <td>65%</td> <td>68%</td> <td>49%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒指導・教育相談において数値の伸びが大。指導や関わり方がより良い方向へ向かっている。</p> <p>【肯定的意見が少ない項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>K「健康や安全、防災等について考える機会がある」</td> <td>60%</td> <td>64%</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>N「先生ははじめについて自分たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」</td> <td>54%</td> <td>63%</td> <td>48%</td> </tr> </tbody> </table> <p>K、Nとも普通の学校生活の中で取り上げる（接する）機会が少ないことが原因か。はじめアンケートや防災訓練などの実施に際しては、学校の体制等についても丁寧に説明・周知することが必要。</p>									R3	R2	R1	E「先生はプリント学習やICTの活用など教え方にさまざまな工夫をしている」	86%	87%	71%	O「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている」	85%	82%	66%		R3	R2	R1	B「港高校の生徒であることに誇りを持っている」	65%	56%	33%	F「港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」	66%	63%	46%	H「生徒指導について、先生は協力して一致した指導に当たっている」	65%	66%	41%	L「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」	65%	68%	49%		R3	R2	R1	K「健康や安全、防災等について考える機会がある」	60%	64%	58%	N「先生ははじめについて自分たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」	54%	63%	48%																				
	R3	R2	R1																																																																				
E「先生はプリント学習やICTの活用など教え方にさまざまな工夫をしている」	86%	87%	71%																																																																				
O「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている」	85%	82%	66%																																																																				
	R3	R2	R1																																																																				
B「港高校の生徒であることに誇りを持っている」	65%	56%	33%																																																																				
F「港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」	66%	63%	46%																																																																				
H「生徒指導について、先生は協力して一致した指導に当たっている」	65%	66%	41%																																																																				
L「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」	65%	68%	49%																																																																				
	R3	R2	R1																																																																				
K「健康や安全、防災等について考える機会がある」	60%	64%	58%																																																																				
N「先生ははじめについて自分たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」	54%	63%	48%																																																																				
<p>● 保護者アンケート</p> <p>【肯定的意見が多い項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A「子どもは、学校へ楽しく通っている」</td> <td>84%</td> <td>82%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>F「定期考査の結果や「成績通知票」を各考査・学期ごとに確認している」</td> <td>85%</td> <td>83%</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>P「学校は、家庭への連絡や情報発信を積極的に行っている」</td> <td>88%</td> <td>82%</td> <td>72%</td> </tr> </tbody> </table> <p>A、Fは毎回高い数値が出ている。項目Pの数値が年々高くなっているのは、新型コロナの影響でさくら連絡網やHPによる情報発信回数が増えたことが要因と考えられる。</p> <p>【生徒・保護者間で差のある項目】（生徒：保護者）</p> <p>「授業はわかりやすい」（68%：56%）、「清掃活動はきちんと行われている」（66% 83%）</p> <p>【肯定的意見が少ない項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C「港高校のHP（ホームページ）を閲覧することがある」</td> <td>46%</td> <td>47%</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>L「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」</td> <td>47%</td> <td>44%</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>M「学校の授業参観や体育祭・文化祭などの学校行事に参加したことがある」</td> <td>38%</td> <td>55%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>O「地震や台風などの危機管理について、学校の対応を理解している」</td> <td>65%</td> <td>80%</td> <td>76%</td> </tr> </tbody> </table> <p>C・・・行事や部活動などの報告を増やしていく必要。L・・・否定的意見が多いわけではない。</p>									R3	R2	R1	A「子どもは、学校へ楽しく通っている」	84%	82%	85%	F「定期考査の結果や「成績通知票」を各考査・学期ごとに確認している」	85%	83%	83%	P「学校は、家庭への連絡や情報発信を積極的に行っている」	88%	82%	72%		R3	R2	R1	C「港高校のHP（ホームページ）を閲覧することがある」	46%	47%	45%	L「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」	47%	44%	42%	M「学校の授業参観や体育祭・文化祭などの学校行事に参加したことがある」	38%	55%	65%	O「地震や台風などの危機管理について、学校の対応を理解している」	65%	80%	76%																												
	R3	R2	R1																																																																				
A「子どもは、学校へ楽しく通っている」	84%	82%	85%																																																																				
F「定期考査の結果や「成績通知票」を各考査・学期ごとに確認している」	85%	83%	83%																																																																				
P「学校は、家庭への連絡や情報発信を積極的に行っている」	88%	82%	72%																																																																				
	R3	R2	R1																																																																				
C「港高校のHP（ホームページ）を閲覧することがある」	46%	47%	45%																																																																				
L「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」	47%	44%	42%																																																																				
M「学校の授業参観や体育祭・文化祭などの学校行事に参加したことがある」	38%	55%	65%																																																																				
O「地震や台風などの危機管理について、学校の対応を理解している」	65%	80%	76%																																																																				
<p>● 教職員アンケート</p> <p>【肯定的意見が多い項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E「本校の生徒は、学校生活を楽しんでいる」</td> <td>92%</td> <td>87%</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>O「生徒が力をしたり体調が悪くなった場合、処置・対応する体制がとれている」</td> <td>94%</td> <td>87%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>R「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる」</td> <td>96%</td> <td>83%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【伸び率の高い項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F「教科会において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」</td> <td>48%</td> <td>38%</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>I「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」</td> <td>79%</td> <td>70%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>N「教育の動向や社会情勢について、新聞やインターネット等で情報を調べている」</td> <td>77%</td> <td>68%</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【肯定的意見が少ない項目】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Y「学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」</td> <td>42%</td> <td>46%</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>Z「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」</td> <td>45%</td> <td>46%</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>P「清掃は生徒と共に実施し、担当の清掃区域は常にきれいに保っている」</td> <td>54%</td> <td>68%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>K「生徒による問題行動が起こった時、組織的な体制が整っている」</td> <td>58%</td> <td>70%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>G「教員の間で、授業方法等について参考にしたり検討する機会がある」</td> <td>65%</td> <td>77%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>YおよびZは以前から低い数値。Y・・・意見を聴取する機会はあるがそれが反映されていないと感じている教員が多い。Z・・・コア会議や運営委員会を活用し、分掌・学年間の連携を高める必要がある。数値が下降傾向にあるP、K、Gについては分掌とも協力して改善に努めたい。90%を超える項目がある一方で、50%に満たない項目がある事は非常に問題である。現場をよく理解した教職員の回答であるだけに、より重く受け止め改善に努めなければならない。</p>									R3	R2	R1	E「本校の生徒は、学校生活を楽しんでいる」	92%	87%	77%	O「生徒が力をしたり体調が悪くなった場合、処置・対応する体制がとれている」	94%	87%	70%	R「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる」	96%	83%	83%		R3	R2	R1	F「教科会において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」	48%	38%	47%	I「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」	79%	70%	70%	N「教育の動向や社会情勢について、新聞やインターネット等で情報を調べている」	77%	68%	81%		R3	R2	R1	Y「学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」	42%	46%	43%	Z「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」	45%	46%	45%	P「清掃は生徒と共に実施し、担当の清掃区域は常にきれいに保っている」	54%	68%	55%	K「生徒による問題行動が起こった時、組織的な体制が整っている」	58%	70%	72%	G「教員の間で、授業方法等について参考にしたり検討する機会がある」	65%	77%	83%	<p>◎第1回学校運営協議会（6月書面実施）</p> <p>●令和2年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの肯定的な回答の伸び、特に学習面においては素晴らしい。保護者アンケートの肯定的意見が低いのは、家庭における会話の量が反映しているのが原因。 教員アンケートからは多忙な様子がうかがえる。コロナ禍の中、生徒の学力、豊かな自己実現のため、教職員の苦勞が感じられる。 コロナ禍ということで、中止や縮小、また達成できなかった事柄も多い中、色々と工夫された1年だったと思います。 「授業が分かりやすい」という意見や、「意見を発表する機会がある」や、「相談できる場や先生がいる」といった良い取り組みの%が上がっておられ、とても良い環境だと思います。 令和2年度学校評価：学校全体でよく努力され、結果が現れてきていると感じます。とくに英語検定合格者数については、これだけの成果が上がるとは思っていませんでした。 <p>●令和3年度学校経営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の経験を活かし令和3年度に特に取り組みたいことが明確になっている。 部活を経験される学生さんが増えると良いと思います。 プロパー・ヘルパー制の廃止、担任団から学年団へといった計画がどのような取り組み・内容になるのか楽しみにしている。 達成が危ぶまれるところもありましたが、教職員の皆さんの努力で個々の目標は十分に達成可能なものと感じられるところまで来ています。コロナウイルスへの対応もあって勤務が過重になりがち。 <p>●学年・分掌マネジメント表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年・分掌においても、重点項目と新規項目をもっと意識した課題設定にした方が良いと思う。 勉学も重要ですが、人とのかわりや、相手の立場に立って物事を考えられる、自分も他者も大切にといった教育にも引き続き取り組んでいただけたらと思います。 隔々まで手を尽くしておられることが具体的に分かり、たいへん興味深い。 <p>◎第2回学校運営協議会（令和3年10月11日）</p> <p>●現状の報告を踏まえての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業の現在の状況は？対象となった生徒のクラスの授業をタブレットで撮影し動画配信サービスで公開。今後質問への返答などができるようにすることが必要。 SC、SSWの利用は？何かかやる気が出ない等進学の際の金銭面の悩みが多い。支援教育主担・教育相談主担など全て同一人物で対応することで特化している。 全体休業の際の授業はどうするのか？休校3日めからオンライン授業を配信しなければならない 生徒の活動が生きいきと伝わってくるHPを拝見。これから受験生を獲得する広報戦略が必要。11月から中学生は進路相談。保護者様が通わせたいと思う学校に人気が出る。私学への流れが強い。 年3回クラブ体験や学校説明会。パンフレットをお送りする。（FAX等で案内）校外での活動。HP更新（クラブの案内多め）オンラインでの学校説明会など プロの教育者の皆様に期待しています 学歴より教養。この学校に来て実りのあるものをつけて欲しい 英検等実際に勉強させられたのはどういったことがよかったのか？過去問などの取り組み。ECCを活用。面談を繰り返し行うなどに効果が見られた。 オンライン端末の現状は？先月1人1台端末が届き配布準備中 近いうちに家庭に届く GIGAハイスクールと1人1台端末とコロナが一緒に来たのが現状 アンケート、宿題提出、プリント配布、小テストの実施が端末でできる教員になるべき 自習をするカルチャーの確立。宿題が当たり前になるようにする 地元根付く学校でありたい → 港区5中学との連携に大きな課題がある 10%も来ていない <p>◎第3回学校運営協議会（令和4年2月18日）</p> <p>●学年・分掌マネジメント表について（現状）</p> <ol style="list-style-type: none"> 教務部 <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業で動画配信や、Web会議システムによる同時相互配信などを行い、授業日に代えている。 コロナによって学校に来ることができない生徒に対して、課題配信を行い、学力の保障を行った。 生徒部（生徒指導） <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導においては、各学年できめ細やかな指導を行っている。 進路指導部 <ul style="list-style-type: none"> 大学の進学率は50%に届く形で、増加している。 英検、漢検、全員受験を行い、生徒の進路の支援を行っている。 生徒部（自治会） <ul style="list-style-type: none"> コロナによってクラブ勧誘が思うようにできずクラブ加入率が50%に到達することができていない。 生徒部（保健） <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、SCやSSWを使用する生徒の人数が多い。・食堂にアクリル板を設置、感染対策に努めている。 総務部 <ul style="list-style-type: none"> 貸出数が50冊を超える生徒がおり、表彰を行った。 <p>●現状の報告を踏まえての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ不安による欠席が多く感じる。オンラインによって不登校の生徒が行き渋るのではないかと課題がある。オンラインの授業体制や、課題での学習保障などを確立していきたい。 朝学の時間など、学校内での取り組みを継承していくことが大事だと感じた。 <p>●令和3年度学校教育自己診断アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートには、肯定値が右肩上がりとなり、生徒と教員の信頼関係づくりができています。 規律の乱れに関してもルールを守れる生徒が増加しており普通の生徒指導の成果が出ている。 保護者アンケートについても、肯定意見が多い。 アンケート結果の肯定値が上がっているのは先生方の取り組みの表れである。 全ての項目において肯定値を上げられるような取り組みを進めてほしい。 <p>●令和3年度学校経営評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業によって、ICT機器を活用することができた。 進路の未決定者が減少し、大学進学率が増加している。 SCやSSWの回数を増加させ、生徒の細かい変化に気づき、支援を行っている。 <p>●令和4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染対策を引き続き行い、生徒の安全や学びを保障する。 今まで以上に進路指導に力を入れ、大学進学率の増加を図っていきたい。 							
	R3	R2	R1																																																																				
E「本校の生徒は、学校生活を楽しんでいる」	92%	87%	77%																																																																				
O「生徒が力をしたり体調が悪くなった場合、処置・対応する体制がとれている」	94%	87%	70%																																																																				
R「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる」	96%	83%	83%																																																																				
	R3	R2	R1																																																																				
F「教科会において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」	48%	38%	47%																																																																				
I「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」	79%	70%	70%																																																																				
N「教育の動向や社会情勢について、新聞やインターネット等で情報を調べている」	77%	68%	81%																																																																				
	R3	R2	R1																																																																				
Y「学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」	42%	46%	43%																																																																				
Z「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」	45%	46%	45%																																																																				
P「清掃は生徒と共に実施し、担当の清掃区域は常にきれいに保っている」	54%	68%	55%																																																																				
K「生徒による問題行動が起こった時、組織的な体制が整っている」	58%	70%	72%																																																																				
G「教員の間で、授業方法等について参考にしたり検討する機会がある」	65%	77%	83%																																																																				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1)「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取組む。</p> <p>ア 授業力向上 PT を中心に主体的・対話的で深い学びの実現をめざし「ICTを活用した授業展開」や「AL」について研修・研究をする。</p> <p>イ 1人1台端末の導入に向けて学校としての組織的な取り組みを行い、これまでの教育実践に ICT を効果的に取り入れ学びの真価を図る。</p> <p>ウ 新学習指導要領の内容について教職員に周知徹底する。各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り観点別評価を確立する。</p> <p>エ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。</p> <p>(2)成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。</p> <p>ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。</p> <p>(3)国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取り組みを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加 主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善。 ・全教員による相互授業見学をさらに発展。 ・授業改善のための校内研修の実施。 ・授業アンケート後の振り返りシートの提出、それを活用した授業改善の取組みを推進。 ・AL や ICT を活用した授業を行う教員の割合を増加。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用研修の実施。 ・ギガスクール構想の中で何が出来るかを教え合う 校内研修の実施 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の内容について教職員に周知徹底する。 ・各教科で評価の仕組みを見直し観点別評価を確立する。 ・各教科で指導と評価の年間計画。(シラバス)を検証 ・各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り適切な授業改善に取組む。 <p>エ 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く学年団としてチームで指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団単位で、<u>授業開始終了のルーティーン</u>を作成。 ・授業準備・机上整理についての具体的な指導方針の作成。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の家庭での学習時間の増加をめざす取り組みを実施。 ・学力生活実態調査での生徒学習時間を増加させる。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数展開授業の効果的な展開。 ・成績不振者の<u>指名補習</u>を学年で実施。 ・不振者課題の「<u>マスト提出指導</u>」を学年で実施。 <p>(3)全員が英検、漢検の何れかの級または両方を取得する。<u>年次進行で、3年間のデザインを確立する。</u> <u>進路部主導、教科・学年が主体</u></p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を利用した各検定に向かった学習形態の深化。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなどを用い、主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開を増加。 ・他校との授業交流。 ・クラス数減などで確保できる教室や会議室を有効利用。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」を60%にする。[55%] ・「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」を80%にする。[77%] ・振り返りシート提出率を100%にする。[100%] ・「教員間で授業方法について検討する機会を積極的にもっている」を80%にする。[77%] ・「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」を45%にする。[38%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」を75%にする。[70%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における観点別評価の確立と連動したシラバスの完成。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベル始め実施率(授業観察時評価)を100%にする。(R1:100%) ・授業開始終了のルーティーン実施率(授業観察時評価)を100%にする。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力生活実態調査のGTZのBCゾーン低下率(対1年1回め)を食い止める。1年+3%、2年-15%、3年-35%に。[1年+3~4%、2年-20%、3年-51%] ・学習時間の増加をめざす取り組み ・学力生活実態調査での生徒の家庭学習時間(第2回実テ) ・不振者指名補習・課題等マスト提出指導(3学年で実施)回数 ・「授業は分かりやすい(生徒)」を70%にする。[68%] ・「教え方に工夫をしている」を90%にする。[87%] <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者数 英検2級と準2級の合格者数40名とする。[準2級以上37名合格] ・漢検2級、準2級合格者数20名とする。[学校休業で中止] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を70%にする。[66%] ・他校授業観察5校実施[4校] 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「評価を行い次年度の計画に活かしている」 54%/-1% (Δ) ・新カリについて教科で検討。 ・「検討する機会を積極的にもっている」 65%/-12% (Δ) ・振り返りシート 50% (Δ) ※任意提出とした結果 ・「検討する機会を積極的にもっている」 65%/-12% (Δ) ・「指導法について取組んでいる」 48%/+10% (○) ※コロナ禍の影響か、肯定感がdown。相互授業見学やICTを活用した研修を進展させたい。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用している」 79%/+9% (◎) ※1人1台端末の導入のための授業づくり研修を自主的に行った。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程WTを開き、観点別評価の確立とシラバス作成、教務内規の整備、評価の試行を行った。(○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベル始め実施率 100% (○) ・授業開始終了のルーティーン実施率 100% (○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力生活実態調査のGTZのBCゾーン低下率…1年+3%、2年+4%、3年-18%(対1年1回め) (○) ・学習時間の増加をめざす取り組み 校内模擬試験参加者数拡大(2年143名[117名]3年120名[90名]) ・学力生活実態調査での生徒の家庭学習時間3学年平均で30.85分。ほとんど学習なしの割合349名で49.4% ・指名補習実施日数 ・不振者講習…1年10日、2年5日3年…各教科にて実施 ・マスト提出指導実施回数…1年10回、2年3回、3年は実施せずとも提出OK ・「授業は分かりやすい」 68%/±0% (Δ) ・「教え方に工夫をしている」 86%/-1% (Δ) ※肯定値は高いが満足しないで努力する必要あり。 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ※朝学習を利用した英検漢検対策や基礎学習への取り組みが発展 2/7 1・2年英検全員受験、(準2級以上19名合格) (Δ) 3年生は単独学年3年間で40名の合格者 (○) 11/2 1・2年漢検全員受験(準2級以上24名合格) (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 73%/+7% (○) ※他校授業観察2校実施(コロナ休校のため実施できず) (→)

府立港高等学校

<p>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援 豊かなでたくましい人間性の育み</p>	<p>(1)各教科、道徳教育、キャリア教育、人権教育等について、「生きる力」を育む教育活動の基盤としての志学・総合的な学習(探求)実施計画を推進する。</p> <p>(2)進路指導の充実を図る。</p> <p>ア チャレンジ講習(毎週7限)を有効活用し、進学希望者に対する講習会を進路部・教科が主導する。進学講習体制充実させ、生徒の進路実現に取り組む。</p> <p>イ 就職希望者に対しての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立し、<u>第1希望進路達成率</u>を向上する。</p> <p>(3)規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。</p> <p>ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」。大麻等の乱用防止、情報モラルの育成に努め、特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。</p> <p>イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品・携帯電話等の指導強化に取り組む。指導にあたり学年間格差をなくす。</p> <p>ウ 欠席者数・遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>(4)「元気な学校づくり」部活動、特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。</p> <p>ア 部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。</p>	<p>(1)学年毎の計画から、学校全体として3年間を見通した計画へ発展させる。港マップの有効活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度年間行事予定作成前に志学・総合的な学習(探求)実施計画を完成(1月まで) <p>(2)大学進学全国平均54.4%、本校1年4月時の進学希望者80%超の実態の中、生徒の自己実現支援を本気で考える。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ講習の5クール・1学期間・1年間の<u>計画を進路が作成</u>し、教科が協力して実施。(進路部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために<u>進学主担者がイニシアチブをとる</u>) ・新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、<u>自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施</u>など、放課後や土曜日の有効的な利用にも取り組む。(1年次から進学講習を実施)進路・学年・教科の密なる連携。 ・<u>自習室の使用計画と運営</u>。(学年主任・学年進路) ・新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら<u>勉強合宿の企画や大学見学や大学施設での自習や講習会の企画</u>。(進路主担・学年主任・学年進路) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習(探求)の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る。(活躍する卒業生や大人への聞き取りの企画・実施) ・同窓会との連携。生徒就労意識を育成。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施。 ・<u>就職講座・公務員講座・看護医療講座</u>などを企画し進路の各係が運営実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入。 ・<u>3年間の進路指導マップ</u>を全学年で共有し活用。(合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用) ・3年生になるまでの早い時期に<u>進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチ</u>を強化。 <p>(3)厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進し、ルール・マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画したり、学年通信で注意喚起。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導に齟齬が出ないよう、生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。<u>生徒部生徒指導G主導</u>。 ・担当者格差・学年間格差が出ないように連携を密に取り、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(<u>遅刻欠席への家庭連絡の強化</u>)。 ・<u>担任・学年生指の指導が主体</u>。この部分で指導数を食い止める。生指部本体では全体の指導方法を検討実施する。 <p>(4)必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観や関心を向ける。</p> <p>ア 新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。 	<p>(1) 将来構想会議での検討の状況 [20回] ⇒ 25回</p> <p>(2)</p> <p>ア 講習などの実施頻度</p> <p>1年…英数国で週1回で20回以上 [10~20回]</p> <p>2年…英数国理で週1回で20回以上 [20回]</p> <p>3年…英数国理など各講座で 週1~2回で30~40回以上 [40回]</p> <p>長期休業中講習</p> <p>1年…英数国5回程度[コロナで0]</p> <p>2年…英数国理15回程度[コロナで0]</p> <p>3年…英数国理15回程度[コロナで0]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取り組みや発信と継続、[3項目] ⇒5項目 ・4年制大学への進学者 [47%] ⇒ 50%に ・4年制大学・短大への進学者 [54%] ⇒ 55%に ・公募推薦等受験[25%]、一般受験[25%]での合格率を高める ⇒ 公募推薦等受験での合格率(30%) 一般受験での合格率(30%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率 [75%] ⇒ 80%に ・学校斡旋就職決定率 [75%] ⇒ 100%に ・インターンシップ人数 [コロナで0人]⇒55人 ・応募前職場見学参加人数 [55人] ⇒ 55人 ・就職講座実施回数 [12回] ⇒15回 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>未決定者や専門学校進学割合を減少させ4年制短大進学を増加させる。</u> その他 [4%] ±0%に 専門学校進学 [35%] -5%に 4大短大進学 [54%] +5%に <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習や研修の実施状況 [各学年2~3回実施] <p>イ</p> <p>保護者「生徒指導の方針には共感できる」を75%にする。[70%]</p> <p>生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」を70%にする。[66%]</p> <p>ウ</p> <p>遅刻者数 [2762件] ⇒2300台へ</p> <p>欠席者数 [4218件] ⇒3000台へ</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を55%にする。 [48%] ・クラブ体験行事の回数を増やす [5日] ⇒ 15日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数 [10回] ⇒ 10日 	<p>(1) 将来構想会議+コア会議…20回実施(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>チャレンジ講習などの実施頻度(△)</p> <p>1年…英数国週1回で各10~20回</p> <p>2年…英数国理週1回で各20回</p> <p>3年…英数国理など12講座で各週1~2回で20~40回</p> <p>長期休業中講習 夏季のみ3学年実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組み⇒3項目(△) <p>担任向け進路ガイダンス・教員向け進路分析研修・自習室の計画的運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した取り組み(○) <p>成績上位者抽出面談、実テ振り返り会、校内模試、進路HR、進路ニュース発行、保護者向け進路説明会など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学への進学者(3月29日)…55%(+9%)(◎) ・4大短大への進学者(3月29日)…62%(+9%)(○) ・公募での合格率…30%(○)、 一般での合格率…23.3%(△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率…85%(◎) ・学校斡旋就職決定率…100%(◎) ・インターンシップ参加人数(0名) <p>(一) コロナ禍で実施できず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募前職場見学参加人数35名(△) ・就職講座実施回数…15回(○) <p>ウ</p> <p>その他4%(◎) ±0%に 専門学校進学30%(◎) -5%に 4大短大進学62%(◎) +5%に</p> <p>※学校経営推進費を有効活用し、eラーニングルームなどの整備の成果がでてきた。</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物・SNS進路関係の講習や研修や学年通信での注意喚起。各学年2~3回実施(○) <p>イ</p> <p>学校運営協議会での意見など肯定的評価</p> <p>「共感できる」72%/+2%(△)</p> <p>「協力して生徒指導に当たっている」54%/-12%(△)</p> <p>※学年間格差をなくし協力して組織的・統一的な指導を行うことを実践していきたい。</p> <p>ウ</p> <p>遅刻者数 2473件(○) 3月末</p> <p>欠席者数 3331件(○) 3月末</p> <p>※さらなる基本的な生活習慣の確立をめざす</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <p>部活動参加率42%/-6%(△)</p> <p>1年生48%と伸びない。2年生女子が36%と伸びない。男子48% 女子40%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験入部の回数を5日(△) ・部活動連絡会10回以上実施 ・部活動講習会0回実施(一)
--	--	--	--	--

府立港高等学校

<p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p> <p>信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「将来構想会議」、運営委員会が企画検討の中心となり学校経営戦略の具体化を推進。</p> <p>ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。</p> <p>イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。</p> <p>(2) 「頼りにされる校務力」の育成（新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る）「学び続ける」教職員の育成（社会の変化に対応できる教職員）</p> <p>(3) 広報活動と地域連携の充実（学校経営推進費の有効活用）</p> <p>ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。</p> <p>イ 国際交流を通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p> <p>(4) 働き方改革 教職員の長時間勤務の</p>	<p>(1) 組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議がコア会議を吸収。将来構想会議を中心とした機動力のある組織運営。 ・分掌を中心とした学校運営を強化し、学年ごとのばらつきをなくし、3～5年後に検証できる学校運営体制を確立。 <p>ア <u>プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止し、担任団という考え方も廃止する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「<u>担任だからできないとか、副担任だからやらない</u>」を改める。 ・<u>担任会を縮小し学年団会議を拡大</u>、担任団から学年団へ。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員数の減少を見込み各分掌が校務の取り組み方を考察。 ・分掌・学年マネジメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、役割分担を考える。 <p>(2) 校内研修とOJTの充実</p> <p>組織的継続的な人材育成、ハラスメントのない同僚性の高い職場環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームによる初任者への研修や支援。 ・経験の浅い教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定。 ・経験の少ない教職員の意見交換の場の設定。 ・提案型の学校運営のための、意見提示ができる機会の設定 ・先進校視察や授業交流の実施。 <p>(3)</p> <p>ア コロナ禍の中での学校説明会や中学校訪問などを工夫し、広報活動を活発にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実。<u>更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。</u> ・中学校への出前授業の実施。 ・広報活動の充実・・・<u>年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチ時期を学校説明会・合同説明会とともに考察。</u> ・広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を<u>総務部の分掌の仕事としマニュアルを作成。</u> ・<u>生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。</u> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域清掃活動の実施。</u> ・老人会などとの<u>地域連携</u>・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流などの新しい取組みの実施。 ・挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校（他地元中学校）と連携した企画を実施。 ・学校経営推進費の活動で、<u>国際交流を用いて幼小中などの連携</u>を図る。 ・110周年記念行事への実行委員会と校内実行委員会の有機的な連携。 <p>(4) 時間外労働削減に向けた取組みの促進、在校時間等管理</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議開催回数 [20回] ⇒ 25回 ・学校教育自己診断（教員）「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を50%にする。[46%] 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を60%にする。[55%] <p>ア 全ての学年で学年団会議を行う</p> <p>イ 学校教育自己診断（教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」を50%にする。[46%] ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」を75%にする。[72%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 [2回] ⇒ 3回 ・教職員研修の実施回数 [3回] ⇒ 3回 ・初任者校内研修 [18回] ⇒ 25回 ・先進校視察実施回数 [4校] ⇒ 5校 ・港高校を考える会・決める会の実施 [3回] ⇒ 3回 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新頻度[3日に1回] ⇒ 2日に1回 [130回] ⇒ 200回 ・保護者「HPを閲覧することができる」を50%にする。[47%] ・中学校への出前授業 [4回] ⇒ 5回 ・新規の広報企画数 [2企画] ⇒ 3企画 ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」を80%にする。[79%] ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める（保護者）を85%にする。[82%] ・学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正（教職員・保護者・生徒の差を10%にする。[82%・87%・75%で12%] <p>イ 実施企画数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 [0回] ⇒ 3回 ・新企画を2～3企画行う ・地域連携活動 [0回] ⇒ 3回 ・110周年記念行事への準備委員会開催回数[4]・・・6回実施目標 <p>(4) 時間外労働時間を10%削減</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>将来構想会議+コア会議</u>・・・20回実施。課題を検討(△) ・<u>「港高校を考える会」</u>・・・1回。スクラップ事項の検討。 ・<u>「決める会」</u>・・・0回。(一) ・「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能」45%/-1%(△) ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」※観点別評価について検討をした。 <p>ア 学年団会議の開催回数が月に1～2回できなかった。担任会のみならず、学年団会議で副担任との連携がなされず、情報共有など難しかった(一)</p> <p>イウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員の意見が反映されるような仕組みがある」42%/-4%(△) 考える会をオンラインで行った。 ・「教育活動について、教職員でよく話し合っている」69%/-3%(一) ・※コロナ禍の中で教職員の話し合い活動に時間を回すことができなかったが、ICT上でアンケートを何度もとったり、意見交換などができた <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修回数5回(○) ・教職員研修の実施回数3回(○) ・新採教職員研修の実施回数19回(△) ・先進校視察実施回数 2校(△) ・港高校を考える会1回・決める会0回(一) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・※情報提供や共有に、さくらメールを機能的に用いることができた。 ・更新回数200回(◎) ・「HPを閲覧することがある」46%/-1%(△) ・中学校への出前授業 0回(一) ・新規の企画数 2企画(△) ・塾対象説明会の実施・オンラインの学校説明会・個別相談会の実施 ・※コロナの影響でできなかった分は資料配布等別の形で補った。 ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」77%/-2%(△) ・保護者アンケート回収率75%/-7%(△) ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正92%・84%・75%で17%(△) ・※1-2年生の意識(80%)の改革ができたことは有意義 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動による地域清掃活動の実施0回(一) ・地域連携活動0回(一) ・※コロナの影響で実施できなかった。 ・110周年準備委員会4回実施、実行委員会発足、具体的検討開始(○) ・※学校経営推進費を有効活用し、デジタルサイネージなどの整備ができた。(110周年歴史の振り返りスライドの常設映像) <p>(4)</p>
---	--	--	--	--

府立港高等学校

	<p>縮減に向けた取組みの促進や在校時間等管理及び健康管理を徹底するとともに、一人ひとりの意識改革を推進する。</p>	<p>及び健康管理を徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー、ノークラブデーの徹底。 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。 	<p>[R02 : 80 時間以上 のべ 32 人 100 時間以上 のべ 5 人 総残業時間 21417 時間 月平均 1784 時間 1 人あたり月平均 31 時間] を R 3 には以下のようにする。 (R03 : 80 時間以上 のべ 25 人 100 時間以上 のべ 3 人 総残業時間 15000 時間 月平均 1500 時間 1 人あたり月平均 25 時間 *すべてにおいて 1 割減を目標 月残業 45 時間以内を目標数値に 置く</p> <p>・労働安全衛生委員会実施回数 [14 回] ⇒15 回</p>	<p>(R03 : 80 時間以上 のべ 37 人 (△) 100 時間以上 のべ 14 人 (△) 総残業時間 20225 時間 (△) (21417/-6%) 月平均 1685 時間/-6% (△) 1 人あたり月平均 33 時間/+ 9%) (△)</p> <p>※コロナの影響で、教材の配布や、 リモート課題の作成など避けられな い時間があった。 ※月残業 45 時間の意識育成が課題</p> <p>・労働安全衛生委員会 12 回 (△)</p>
--	---	---	---	---